



第2回総会のお知らせ

【日程】 9月10日(土) 12:30より

【会場】 武蔵野芸能劇場
(東京都武蔵野市)

スライドトークや交流会も予定しています。詳細は別紙をご覧ください。

- 第2回公式訪問報告
- **子どもたちと再会!**
- 【別紙】第2回総会のご案内/大阪現地
- 報告会のご案内/お寄せいただいたアン
- ケートについて/オッフアリンの要請・
- 事業見積書

アフガニスタン山の学校だより

05号



屋根の雪かきをする新1年生

会員の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。今年春に行った公式訪問の報告を載せた第5号が出来上がりましたので、皆様にお届けいたします。

山の学校は新入生を迎え、にぎやかな新学期を迎えました。先生と生徒から、「日本の皆さんからの支援に感謝しています。会員の皆さんによりしくお伝えください」という温かいメッセージを預かりました。

今回の訪問は、校庭用地購入の交渉を地元有力者ハジ・サーズデインに依頼することから始まりました。土地が手に入れば、図書館建設も可能になってきます。また、ドイツのNGO「オッフアリン」の駐在員ピーター代表からは、現在行われているポーランド地区のおとな向けの識字教育の実情を聞き、本会からも財政支援を行うことを約束しました。「山の学校支援の会」は子どもたちだけでなく、おとなが学ぶ手助けもできればと思います。ただ、支援を計画している2教室分の維持経費は、先生の講習、給与、文房具などで1年に3000ドル近く。さらに100人以上の会員を増やすことが必要となります。皆様、ぜひ、周りの方々にお声を掛けていただき、新たな会員加入にご協力いただければと思います。

今回の訪問で、「会」と「山の学校」の絆はますます強まってきたことを実感しました。と同時に、新たな展開も必要となってきました。9月に予定している東京での総会、大阪での報告会では、活発な討論を持てればと思っています。ぜひ、ご参加ください。そこで、お目にかかるのを楽しみにしています。

長谷川洋海

子どもたちと再会!

今年3月、長倉代表が第2回目の公式訪問を行いました。訪問中は、ドイツのNGOへの支援協力や校庭用地確保など、新たなプロジェクトの準備に奔走しました。ここでは1年ぶりに再会した子どもたちの様子をご報告します。

報告・長倉洋海

アフガニスタン山の学校支援の会・代表

のアップができないだろうか」という。

基本的には、「政府からの月給30ドルと支援の20ドルの計50ドルで何とかしてほしい」というのが私の考えだったが、周りの人たちの意見を聞いてみる。カブール在の安井さんは「田舎でも最低、ひと月100ドルないと暮らせへんよ」という。マソードの戦友で、バザラックの町長ハジ・サーズディンも、「先生の給与支援をアップした方がいい。先生の中には、転職したいと相談に来る人もいる。先生が少なくなれば、学校が廃校に追い込まれるかもしれない」と心配する。バンシールでもさまざまなNGOが活動を始めており、また、9月に予定されている議会選挙の広報員が募集されているので、薄給の先生を辞め、そちらに転職する人が出ているという。字が読め仕事ができぬ人が他に少ないのだ。これらの事情を考慮して、一律20ドルアップを決めた。先生あつての学校だ。アップを伝えると、サフタルの表情がバツと輝いた。

ほぼ1年ぶりに訪れたカブール。到着した3月21日は、ちょうど新年を迎えたおめでたい日。家族連れが市内の公園や動物園に繰り出し、たいへんな人出だった。そんなにぎやかな街に、「山の学校」の校長サフタルと教師兼運転手のヨシムが、昨年、寄贈した四駆車で迎えに来てくれていた。挨拶もそこそこに、車の調子を尋ねると、1年でバンク13回、そのほかにもあちこち壊れて修理したという。それでも、岩だらけの山路を中学の女性教師、時には病人を乗せて走ったと聞いて、「よう頑張ったなあ」と、思わず車にねぎらいの言葉を掛けてしまった。

でも、サフタルに元気がない。訳を聞くと、大雨で土造りの家の天井が崩れ、居間がつぶれてしまったというのだ。今年は雪が多かったし、つい先日の大雨ではあちこちで崖崩れが起き、たくさん山の山路が遮断されたと言う。家の修理にお金がかかると落胆するサフタル。3か月分の給与支援を渡そうとすると、モジモジ、「給与支援額

行われている。舗装道路をバンシールまで伸ばす工事だ。完成まで2年、舗装道路ができると、「山の学校」と人々の生活はどう変わるのか。都市化によって人々の素朴さが失われるのではないかと心配も頭をよぎるが、結局は地元の人々が判断すること、私たちはそれを見守っていくしかない。

バンシールにももうすぐ春が

バンシール峡谷に入ると、あいにくの小雨模様。山の斜面に広がる村々には、ほのかな桃色のアーモンドの花が美しく咲いている。もう少しでリンゴの花も咲くという。雨模様の中に、静かな春がひっそりと息づいていた。

昨年、バンシールは32番目の県となり、その県庁所在地はバザラック。商店街がわずかにある小さな町並みを通ると山路は急勾配になり、30分ほどで「山の学校」に着いた。昨日、雪が降ったといい、肌寒い。木々に緑はなく、周辺の山々は雪に覆われている。下流とは高度差300メートルほどだが、気候の違いに驚く。アンズの花が咲くのは、まだ1か月先と聞いてちょっとがっかり。山の村々はまだ冬なのだ。

学校から、先生と生徒たちがバラバラと飛び出してきた。みんな歓迎の笑顔いっぱいに浮かべている。どの顔も見知った懐かしい顔。それを目にした私は、それだけで嬉しくなる。子どもたちが着ているのは昨年、贈ったカラフルなフリース。「似合っているよ」と声を掛けると照れる様子が

また、かわいい。

すぐに、1年生のクラスをのぞいてみた。どんな子どもたちが来ているのだろう。が、中には、昨年の1年生のクラスで見た子がたくさんいる。驚いて訳を聞くと、「昨年はオプザーバーで参加していた」と先生。お姉ちゃんやお兄ちゃんにくっついて来ていたらしい。山の学校は保育所代わりでもあるのだ。そんな子どもたちは別にして、初めての子は緊張気味で、カメラにも表情が硬い。

まだ学校には、新学期の教科書が届いていないらしく、初日は顔合わせだけ。授業はなくても、久しぶりの登校に、みんな嬉しさが隠しきれないのか、どこか浮き浮き。私の宿泊先は、昨年と同じ学校用務員のアブドラの家だ。しかし、その夜から雪が降り始め、翌朝起きてみると、外はまったくの銀世界。こんな雪では通学できない子どもが多いので、学校は休校。しかし、学校は休みでも家の手伝いに休みはない。子どもたちは朝早くから牛に餌を与え、用水路から水をくむ。朝の仕事がひと区切りつくと今度は屋根の雪下ろし。土造りの家だから、早く雪を下ろさないと溶けて、雨漏りの原因になるし、重さで家がつぶれることもある。手にするスコップはヘラの部分まで木製で、とても重い。それでも子どもたちは元気に、たくましく雪を投げ下ろす。その後は、表で雪遊び。雪合戦、雪玉作り、タイヤチューブと縄でできた投石器で雪を遠くに飛ばす子もいる。私は久しぶりの雪景色と雪の中で遊ぶ子どもたちが撮れたので大満足。

子どもたちに お土産を配る

翌日、学校に、そそくさと向かう。子どもたちへのお土産があるのだ。カプールの郵便局で受け取った荷を開封し、中からバドミントンセットや縄跳び、けん玉などを取り出す。昼休みに、さっそく子どもたちを使い方を教える。バドミントンはすぐ覚えてくれ、みんな夢中に。羽根球が軽いので風にすぐ流されるが、みんな楽しんでるのを見て、ホッとした。縄跳びは知っている子がいたが、私がさっそく得意の2回跳びを実演。女の子たちが先を争って、跳び始める。

午後、前回持参するのを忘れた顔写真とスナップ写真を配る。「今度は写真を持ってきてね」と言われていたからだ。300枚をほぼ配り終わったが、何人かの子には写真がない。「どうして、ほかのほくない」と悲しそうな表情で聞いてくる。「クラス全員の顔写真を撮った日に来てた？」と聞くと、首を振る。表で写真を撮り、「よし、来年は大丈夫」と言うと、やっと安心した顔を見せてくれた。

写真をほぼ全員に配り終えたが、泣き虫で、いじめられるいつもお兄ちゃんがかばっていたジュマ・ハーンの写真が残った。2年生になっているはずだが、先生のヨシムが「お母さんの葬儀でパリオン村に行っている」という。母親は出産時に、母子ともに死んでしまったというのだ。「村に病院があったら死なずに済んだのに」と

ヨシムがつぶやく。大粒の涙を流していたジュマ・ハーンの泣き顔が浮かんで切なくなった。

わずかな時間だったが、村も回った。その時、少女サラ（12歳）に再会した。前回「何年生だっけ？」と聞いた時、悲しげに首を振ったサラは、足の悪い母親の手伝いのために学校に行っていなかった。今はどうなんだろう。少し、期待を込めて、「識字教育のクラスに行っている？」と尋ねてみたが、首を振った。クラスは歩いて1時間ほど下流なのだが、父親と話すのが、彼女を学校にやっている時間も、その余裕もないという。今、会がオッフアリンと共同で増設を計画しているクラスは、このすぐ近くにも開かれる。今度こそ、その教室に

参加してほしい。また、来年、両親を説得してみようと思いつきながら、村を後にした。滞在はわずか2週間、子どもたちと過ごす時間が少なかったのが残念だったが、別れ際、先生も生徒も、皆口をそろえたように「支援ありがとう。私たちはとっても喜んでいきます」と言ってくれる。「また、来年来るからね」と手を振ると、子どもたちが手を振ってくれる。日本に届けたいわんばかりに力強く振られた手に、心が熱くなった。

なぐらひらひら●本会代表、写真家。1952年群馬県生まれ。世界の紛争地を訪ね、そこに生きる人々の姿を追う。92年「マスト」愛しの大地アフリカで第12回土門拳賞受賞。2005年「フビット」家、家建てる」で、第36回講談社出版文化賞受賞。

「識字教育」支援を 始めるにあたって



ドイツのNGO「オッフアリン」が2年前からポーランド地区で「識字教育」の活動を行っています。現在4か所にクラスがありますが、地元の人々の要請で、さらに2か所増設する計画があり、今回の訪問の際に長崎代表に協力の依頼がありました。

帰国後、運営委員会で話し

合い、識字教育支援をオッフアリンと共同で進めることを正式に決め、協力要請を受け入れました。そして、増設する2か所の経費を本会が負担することにしました。

その2か所は、「山の学校」の子どもたちが住んでいる所から比較的近い場所に開かれるとのこと。長い戦乱や家庭の事情などで、就学する機会を逸したまま成長した子どもや女性たちが、少しでも教育を受けられるようになればと期待しています。

本会からは、識字教育支援の具体的な活動として、3年

間で約90万円の財政支援を行います。そこで、皆様に識字教育支援のためのご寄付をお願い申し上げます。併せて、現在進行中の校庭用地確保のための費用（約50万円予定）のご寄付もお願いしたく、郵便振替用紙を同封させていただきますましたので、趣旨をご理解の上、ご協力いただければ幸いです。

なお、活動を支える財政基盤の確保のために、会費分割払い（も確実に納入してください）もお願い申し上げます。

オッフアリンの要請・事業見直しについては別紙参照

事務局から

●貴重なご意見ありがとうございました！前号同封のアンケートには、お忙しい中ご協力くださり、ありがとうございました。質問等につきましても、運営委員会で検討し、別紙に回答させていただきます。

●住所変更等お知らせください。会報等をお送りしても戻ってきません。事例が増えています。住所・氏名等の変更の際には、ぜひ事務局までお知らせください。

●子ども用手袋・靴下ご提供のお願い。送料負担を考慮し、今回は手袋と靴下に限りお願いします。事務局にご一報のうえお送りください。（誠に恐縮ですが、事務局までの送料はご負担ください）

●書き損じハガキ・不要切手を募集中。引き続き、書き損じハガキやお使いにならない未使用切手がありましたら、ご提供をお願いします。通信費などの一部に使わせていただき、経費の削減に役立てたいと思います。

●カプールの安井さんが本を出版。コラム「カプールの通信」でもおなじみの安井浩美さんが『私の大好きな国アフリカニスタン』（あかね書房）を出版、そのご案内を同封しました。ぜひお手にとってご覧ください。

ポーランドの 小さな仲間たち

今回ご紹介する3人は、今年、入学したばかりの新1年生です。もう学校には慣れたかな？



アフズルワハブくん
(7歳) 1年



ファヒマちゃん
(7歳) 1年



マシワラールくん
(6歳) 1年

山の学校 ふおと ぎやらりい



1. 雪の朝、雪玉をつくる男の子 2. まだ、緊張気味の新1年生
3. 小雪の中、水くみに向かう 4. 職員室の中の小さな図書館で
5. 別れの時、教室で手を振る3年生たち 6. 朝、水くみをする
Shamina (2年)と見守るFatana (3年) 7. 新しい学期の時間割りを
ノートに写す子どもたち 8. 朝、家畜を表に出す 9. さっそく、
縄跳びを楽しむ

www.h-nagakura.net/yamanogakko
ホームページ制作
スタッフより



今回のテーマ… 暦 ☺

チャットル ハステイド? (お元気ですか?)
イスラムの国では「ヒジュラ暦」という
太陰暦をもとに人々は生活しています。この
暦も12か月から成りますが、ひと月が
29~30日なので、私たちが使っている太陽
暦より、1年で約11日短くなります。つま
り長い年月の間には、同じ行事でも季節
が異なることになり、そのため、農耕な
どでは太陽暦が用いられてきました。近年
では、学校教育・国際商取引などでは太陽
暦が一般的になっているそうです。
このヒジュラ暦第9月が、日本でもその
名をよく耳にするラマダン月で、1か月間
の断食をする期間です。断食といっても、
日没から夜明けまでは食事をすることが
でき、幼児や妊婦などは断食を免除されま
す。ラマダンが明けると、「イーディー」と呼

れる祝祭があり、3日間ほど祝日になりま
す。この期間には日頃お世話になっている
人々へ贈り物をする習慣もあり、前回、私
たちが贈った文房具などは、図らずもこの
イーディーの時期と重なり、子どもたちも
とても喜んでくれたようで何よりでした。

話そう! タリ語

アズ クジャー アーマティド?
「どこから来ましたか?」

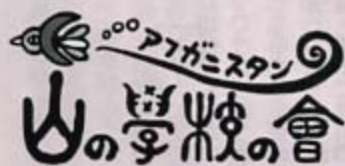
از کجا آمدید?

アズ ジャーバーン アーマダム
「日本から来ました」

از جاپان آمدم.

タリ語参考文献: 鶴岡尚子著
『旅の指さし会話帳 アフガニスタン』

新コーナー「アフガニスタン耳より情報」登場!
運営委員が入手した、アフガニスタンに関する
講演会、書籍、映画、ニュースなど、様々な
「耳寄り」な話題を紹介していきます。ふだんは
なかなか伝わってこないアフガニスタンの情報
を、皆さんと分かち合っていきたいと思えます。
「山の学校ギャラリー」更新しました!
今回誌面でご紹介しきれなかった最新の写真を
「山の学校ギャラリー」コーナーにたくさん掲載
しています。こちらも併せてご覧ください!



アフガニスタン 山の学校支援の会
〒187-0032
東京都小平市小川町 1-1071-15 比留川 気付
FAX / 留守番電話: 042-345-7805
URL: www.h-nagakura.net/yamanogakko
郵便振替口座: 00160-1-667404

編集 ● 岩崎紫 佐々木瑞紀 林道子
題字 ● イラスト (DS) ● 近藤理恵
印刷 ● (有) アドタック

では皆さん、暑い夏、お体に気をつ
けてお過ごしください。次号の発行は
12月を予定しています。お楽しみに!

【編集後記】こんにちは! いつも
「はあーる」を読んでいたいただきありが
とございます。前号でお届けしたア
ンケートにはご多忙の折、ご協力くだ
さりありがとうございました。どれも
今後の活動の参考になる貴重なご意見
ばかりでした。皆さんからのご意見・
ご質問は、常時受け付けています。

9月には第2回総会を開催します。
できるだけ多くの方にお会いできるこ
とを楽しみにしていますが、もしご都
合が合わなかった場合でも、次号で詳
細をご報告いたしますので、どうかそ
ちらをご覧ください。

「アフガニスタン山の学校支援の会」
は、写真家・長倉洋海が取材活動を通
じて出会った、パンシール深谷ポーラ
ンテ村の子どもたちの教育支援を目的
として設立された非営利の団体です。
2004年2月に設立、以後2014
年3月までの約10年間にわたり活動を
続けていきます。